

## 乳幼児健診における母の訴えと健診所見について

小宮久子

要約：沖縄県宮古保健所が実施した乳幼児一斉健診を、ほぼ1年間隔で3回受診した児571名を対象とし、各個人の母子管理カードについて調査した。各健診毎に、母から多くの問題が訴えられるが、大部分は1回だけの訴えであり、その内容は健診時期により特徴がある。3回ともくり返えされる訴えは、精神発達に関する心配が多い。一方、指示・指導が行われた所見も1回のみのもが多く、時期により問題が異なっている。また心身障害児の継続的な経過観察の場としても健診が役だっている。

見出し語：乳幼児健診、母の訴え、健診所見、障害児

### 研究方法：

昭和57年4月1日から昭和58年3月31日までに出生し、沖縄県宮古保健所が実施した乳幼児一斉健康診査を、ほぼ1年間隔で、0歳代・1歳代・3歳代の3回とも受診した児571名（男287名、女284名）を対象とし、各個人の母子管理カードについて調査した。

### 結果：

#### 1、対象児の家庭的背景（3歳代健診時）

- (1)同胞数；一人子26.8%、同胞1人24.0%、同胞2人以上30.1%、不明19.1%
- (2)出生順位；第1子33.6%、第2子28.2%、第3子以上36.6%、不明1.6%
- (3)本人を含めた家族の人数；2人（母と子）0.2%、3人11.9%、4人17.9%、5人

18.9%、6人以上27.9%、不明23.3%

(4)祖母が同居している；21.7%

(5)出生時体重2500g以下の児；48名(8.4%)

#### 2、母からの訴えの内容のついて（表1）

- (1)問診あるいは診察時に母から様々な心配・不安が訴えられるが、ほぼ1年間隔の健診で1回だけの訴えと、2回、3回と同じ訴えが続くものとに分けてみた。表1に示すように各時期に多くの問題が訴えられるが大部分は1回だけの訴えであり、継続する訴えは少ない。
- (2)1回だけの訴えの内容は、健診時期により大きく異なっている。すなわち0歳代では体質傾向・皮膚疾患が多く、1歳代では食事栄養・行動情緒の問題が増え、3歳代で

表1 母からの訴えの内容 (件数)

健診時期 訴えの内容	0歳代 のみ	0歳代& 1歳代	0歳代& 1歳代& 3歳代	1歳代 のみ	1歳代& 3歳代	3歳代 のみ
	件数(%)	件数	件数	件数(%)	件数	件数(%)
皮膚疾患	43(28,3)	2		15( 8,8)	1	18(10,6)
口腔疾患	5( 3,3)			1( 0,6)		
頭部の変形等	1( 0,7)			1( 0,6)		
眼疾患	7( 4,6)			5( 2,9)		3( 1,8)
耳鼻疾患	4( 2,6)		1	1( 0,6)		2( 1,2)
心疾患			1		1	2( 1,2)
呼吸器疾患				1( 1,2)		4( 2,4)
整形外科疾患	7( 4,6)		2	9( 5,3)	2	2( 1,2)
生殖器	2( 1,3)		1	5( 2,9)		
痙攣	1( 0,7)		2	2( 1,2)	3	3( 1,8)
肥満	1( 0,7)			2( 1,2)		
やせ、こがら	6( 3,9)			8( 4,7)		
その他身体的問題	6( 3,9)	1		14( 8,2)	1	6( 3,6)
体質傾向	54(35,5)	1		29(17,1)	1	8( 4,7)
精神運動発達遅滞	3(2,0)		2	13( 7,6)	7	26(15,4)
食事・栄養の問題	8( 5,3)			30(17,6)		25(14,8)
行動・情緒の問題	4( 2,6)			34(20,0)		70(41,4)
合計	152(100)	4	9	170(100)	20	169(100)

はそれらに加えて精神運動発達特に言語に  
関する訴えが増加している。

(3)3回の健診とも同じ訴えがされた 9件中 7  
件が先天異常・先天奇形である。

(4)1歳代と3歳代の2回同じ訴えがされた20  
件の中では、精神発達遅滞またはそれを疑  
うての心配が 7件である。

### 3、指示・指導が行われた所見の内容 (表2)

(1)表2に示すように1回のみの所見が多く、  
継続するものは少ない。

(2)0歳代のみの所見件数は 153件と多いが、  
1歳代のみでは0歳代の約 1/3、3歳代の

みでは約1/2 となる。いずれも湿疹など皮  
膚疾患が多いが、0歳代の貧血に対する栄  
養指導、3歳代の行動・情緒の問題に対す  
る心理相談が目立っている。

(3)3回とも見られた所見21件中、先天性ある  
いは原因不明の精神発達遅滞が 8件、痙攣  
で要治療のもの 4件があり、両方合併して  
いる児もいる。

4、心身障害児として継続的に療育相談をして  
いる児は全対象児 571名中14名 (2,5 %)   
である。

表2 指示・指導が行なわれた所見の内容(件数)

健診時期 所見の内容	0歳代 のみ	0歳代& 1歳代	0歳代& 1歳代& 3歳代	1歳代 のみ	1歳代& 3歳代	3歳代 のみ
	件数(%)	件数	件数	件数(%)	件数	件数(%)
皮膚疾患	48(31.4)	3		13(22.4)		22(29.7)
口腔疾患	20(13.1)			3(5.2)		
頭部の変形等	5(3.3)					1(1.4)
眼疾患	11(7.2)		1	1(1.7)		1(1.4)
耳鼻疾患	2(1.3)		1	3(5.2)		5(6.8)
心疾患	3(2.0)	1	2	2(3.4)	2	4(5.4)
呼吸器疾患	6(3.9)			6(10.3)		2(2.7)
整形外科疾患	6(3.9)	1	2	2(3.4)		2(2.7)
生殖器	4(2.6)		2	3(5.2)		1(1.4)
痙攣			4	1(1.7)		2(2.7)
肥満	12(7.8)				1	
やせ、こがら	3(2.0)			3(5.2)		1(1.4)
その他身体的問題	5(3.3)	2		8(13.8)		1(1.4)
精神運動発達遅滞	1(0.7)		8	2(2.4)	4	11(14.9)
食事・栄養の問題				2(3.4)		2(2.7)
行動・情緒の問題				1(1.7)		12(16.2)
貧血	27(17.6)	4	1	8(13.8)	1	
尿検査異常						8(10.8)
合計	153(100)	11	21	58(100)	8	74(100)

考察：

健診時の母の訴えには、既に診断や治療を受けているものも含まれており、また必ずしも緊急性はなく、何となく心配の相談が多い<sup>1)</sup>。本調査における訴えも1回だけで、次回までには解消しているものが大部分であるが、その時々親の心配を受けとめることは、健診の大切な役割であろう。所見についても継続するものが少ないが、軽微な症状のうちに適切な対応をすることが必要である。一方、年令とともに自然に解消する所見も多いという事実は、母の不安の

軽減に役立つであろう。

また心身障害児の継続的な経過観察の場としての健診の役割も確かめられた<sup>2)</sup>。

文献

- 1) 南部春生：小児の微症状をめぐって、小児保健研究、47(6)603-609、1988
- 2) 神前智一、他：保健所における発達障害児の健診、小児保健研究、44(5)520-523、1985



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:沖縄県宮古保健所が実施した乳幼児一斉健診を、ほぼ1年間隔で3回受診した児571名を対象とし、各個人の母子管理カードについて調査した。各健診毎に、母から多くの問題が訴えられるが、大部分は1回だけの訴えであり、その内容は健診時期により特徴がある。3回ともくり返えされる訴えは、精神発達に関する心配が多い。一方、指示・指導が行われた所見も1回のみのもが多く、時期により問題が異なっている。また心身障害児の継続的な経過観察の場としても健診が役だっている。